

(別紙5)

状況報告  
令和2年産栽培管理計画

1 栽培作物及び場所

作物名	水稻	栽培面積	1,814.7 a
農薬等使用区分	農薬：農不	化学肥料：化不	

2 栽培管理

(1) 栽培管理計画

時期 (旬、日)	作業名	資材使用 の有無
9月		有
10月	米ぬか散布 10/22 ~ 24	
11月	稲わら鋤きこみ 10/25 ~ 28	
12月		
1月		
2月	種子消毒・種まき・育苗	無
3月	3/16 ~ 17 4/8 ~ 10 4/11 ~ 4/10	
4月	肥料散布・耕起 4/11 ~ 19	無
5月	代掻き・田植え 5/22 ~ 4/4 4/26 ~ 4/5	
6月	機械除草 7/28 ~ 30	
7月	手取除草	
8月	畦の草刈り 8/25 ~ (9/15)	
9月	稲刈・乾燥・調整	
10月	(10/10 ~ 10/23)	
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		
計画生産量	70.8 t (390kg/10a)	
看板設置予定	7箇所	
栽培上の特記事項：○温湯による種子消毒。 ○プール育苗による健苗育成 ○紙マルチ田植え		

- 注) 1. 作業については、前作の収穫終了後から当該作物の収穫終了時までを記入する。  
2. 集団の場合、栽培についての申合せや取決めに関する資料を添付する。  
3. 農薬等使用区分は、「不使用」「5割以下」等と記載する。

(2) 除草及び病害虫防除の方法 (農不・化不)

除草の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙マルチ田植え</li> <li>手取り除草・機械除草</li> </ul>
病害虫防除の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>60度で10分間の温湯消毒で健苗育成</li> <li>畦畔の草刈をまめに行う</li> </ul>

注) 1. 除草の方法は、手取り除草や除草機使用等を詳しく記入する。  
 2. 病害虫防除の方法は、基本的な対策のほか、予想以上に病害虫が発生した際の対応についても含めて記入する。

(3) 種子・種苗の状況入手方法等

- ① 自家採種又は自家採種以外の区別 (○を付ける)  
 自家採種 ○自家採種以外
- ② 自家採種以外の種子、種苗に対する入手前の化学合成資材の処理状況  
 ア 化学合成肥料 (○を付ける) 処理 ○無処理  
 イ 化学合成農薬 (○を付ける) 処理 ○無処理

3 使用資材 (使用が予想される全ての資材を記入する。)

(1) 肥料、土壌改良資材及び堆肥等

資材名	天然・化学系資材の別	使用量 kg/10a	時期 (月日)	窒素成分量	うち化学合成窒素
米ぬか	天然	100	10月	10/21~24 0	0
ケイホットライスオール	天然	220	4月	5/11~18 2.2	0
				0	0
				0	0
				0	0
				0	0
				0	0
				0	0
合計				2.2	0
当該作物の認証基準値					4.0

注) 1. 土づくり資材含む。  
 2. 有機質肥料に化学肥料を含む場合 (配合肥料) の場合は、化学資材と記入する。

(2) 農薬 (農不・化不)

農薬名	成分数	使用量	時期 (月日)	対象病害虫・雑草等名
なし		(希釈倍数 %/10a) (k g/10a)		
合計	0			
当該作物の認証基準値	0			

- 注) 1. 種子又は育苗に使用された農薬名も記入する。  
 2. 農薬名が特定できない場合は、〇〇剤、△△剤、××剤のうち1剤とし、成分数はその候補の中で最も成分数の多い数値を記載する。  
 3. 液剤等希釈して使用するものは、使用量は希釈倍数と散布量を記載する。

(3) その他資材

資材名	有機・化学 資材の別	内 容	使用目的	使用量	時期 (月日)	うち化学 成分量

注) (1)(2)以外の目的で使用するものを記入 (木酢液、ヒバ油、〇〇エキス、ペンキ等)。

(4) 自家製造資材の原料・製造方法

資材名	原料名	製造方法
なし		

- 注) 1. (1)(2)(3)において該当するものを記入。  
 2. 資材名は(1)(2)(3)において記入した名称を用いること。  
 注) 1. 資材は、前作の収穫終了後から使用したものを記載する。  
 2. 購入資材については、カタログ、説明書等内容がわかる資料を添付すること。

状況報告  
令和2年産栽培管理計画

1 栽培作物及び場所

作物名	水稻(移植)	栽培面積	3,777 a
農薬等使用区分	農薬: 節農5	化学肥料: 化5	

2 栽培管理

(1) 栽培管理計画

時期 (旬、日)	作業名	資材使用 の有無
9月	米ぬか散布 10/31 ~ 22	有
10月	稲わら鋤きこみ 9/15 ~ 1/4	
11月		
12月		
1月		
2月	3/10 ~ 17 4/3 ~ 12 4/8 ~ 6/3 温湯消毒・種まき・育苗 - 3月	有
3月	醃酵鶏糞 4月 4/2 ~ 5/9	
4月	肥料散布・耕起 4/20 ~ 5/13 11/23 (移植) 除草剤	有
5月	代掻き・田植え・除草剤散布 5/10 ~ 5/29 5/14 ~ 4/3 5/25 ~ 6/10	有
6月	畦草刈り 4/10 ~ 中干 7/1 ~ 7/28	
7月	溝切り 7/2 ~ 19	
8月	手取除草・病虫害防除	有
9月	稲刈・乾燥・調整	
10月	(9/21 ~ 10/5)	
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		
計画生産量 / 192.6 t (510kg/10a)		
看板設置予定 40箇所		
栽培上の特記事項: 病虫害の農薬防除は基本的に行わない。 但し天候その他病気の発生によりやむを得ない事情により、防除を 1回認める。		

- 注) 1. 作業については、前作の収穫終了後から当該作物の収穫終了時までを記入する。  
2. 集団の場合、栽培についての申合せや取決めに関する資料を添付する。  
3. 農薬等使用区分は、「不使用」「5割以下」等と記載する。

(2) 除草及び病虫害防除の方法 (節農5・化5・移植)

除草の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 除草剤を1回使用</li> <li>・ 手取り除草</li> </ul>
病虫害防除の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 60度で10分間の温湯消毒で健苗育成</li> <li>・ 畦畔の草刈をまめに行う</li> </ul>

注) 1. 除草の方法は、手取り除草や除草機使用等を詳しく記入する。  
 2. 病虫害防除の方法は、基本的な対策のほか、予想以上に病虫害が発生した際の対応についても含めて記入する。

(3) 種子・種苗の状況

- ① 自家採種又は自家採種以外の区別 (○を付ける)  
 自家採種 ○自家採取以外
- ② 自家採種以外の種子、種苗に対する入手前の化学合成資材の処理状況  
 ア 化学合成肥料 (○を付ける) 処理 ○無処理  
 イ 化学合成農薬 (○を付ける) 処理 ○無処理

3 使用資材 (使用が予想される全ての資材を記入する。)

(1) 肥料、土壌改良資材及び堆肥等

資材名	天然・化学系資材の別	使用量 Kg/10a	時期 (月日)	窒素成分量	うち化学合成窒素
米ぬか	天然	100	10月	$\frac{10}{21} \sim \frac{22}{22}$ 0	0
✓ ファイン千代田 (14-17-12)	化学	0.6	✓ 3月	$\frac{3}{25} \sim \frac{4}{2}$ 0.084	0.084
醗酵鶏糞 (ファーテック)	天然	150	4月	$\frac{3}{31} \sim \frac{5}{5}$ 3.15	0
もしくは					
ケイホットライスハーフ	天然	180	4月	$\frac{4}{22} \sim \frac{5}{8}$ 0	0
✓ グリーンペースト	化学	25	5月	$\frac{5}{24} \sim \frac{7}{3}$ 3.0	3.0
ケイカル (青天の霹靂用)	天然	100	4月	$\frac{4}{22} \sim \frac{29}{29}$ 0	0
合 計				3.08~ 6.23	3.08
当該作物の認証基準値					4.0

注) 1. 土づくり資材含む。

2. 有機質肥料に化学肥料を含む場合 (配合肥料) の場合は、化学資材と記入する。

(2) 農薬 (節農5・化5・移植)

農薬名	成分数	使用量 /10a	時期 (月日)	対象病害虫・雑草等名
タチガレエースM粉剤	2	200g <del>1/25</del> <del>1/25</del>	4月	苗立枯
銀河フロアブル	3	500mL <del>1/25</del> <del>1/25</del>	5月	ヒエ・ホタルイ・ア ゼナ・オモダカ
ブラシンフロアブル	2	1000倍で140L	8月	いもち
バリダシン液剤5-	0	1000倍で140L	8月	紋枯
ダントツフロアブル	1	5000倍で140L	8月	カメムシ他の害虫
の3剤のうち、総使用成分回数を超えない範囲で使用する。				
合計	5~8			
当該作物の認証基準値	8			

- 注) 1. 種子又は育苗に使用された農薬名も記入する。  
 2. 農薬名が特定できない場合は、〇〇剤、△△剤、××剤のうち1剤とし、成分数はその候補の中で最も成分数の多い数値を記載する。  
 3. 液剤等希釈して使用するものは、使用量は希釈倍数と散布量を記載する。

(3) その他資材

資材名	天然・化学 資材の別	内 容	使用目的	使用量 (kg/10a)	時期 (月日)	うち化学 成分量 (kg/10a)
なし						

注) (1)(2)以外の目的で使用するものを記入 (木酢液、ヒバ油、〇〇エキス、ペンキ等)。

(4) 自家製造資材の原料・製造方法

資材名	原料名	製造方法
なし		

- 注) 1. (1)(2)(3)において該当するものを記入。  
 2. 資材名は(1)(2)(3)において記入した名称を用いること。  
 注) 1. 資材名は、前作の収穫終了後から使用したものを記載する。

2. 購入資材については、カタログ、説明書等内容がわかる資料を添付すること。

(別紙5)

状況報告  
令和2年産栽培管理計画

1 栽培作物及び場所

作物名	水稲(直播)	栽培面積	4,022.9a
農薬等使用区分	農薬: 節農5	化学肥料: 化5	

2 栽培管理

(1) 栽培管理計画

時期 (旬、日)	作業名	資材使用 の有無
9月		
10月	米ぬか散布 10/31	有
11月	稲わら鋤きこみ 11/25 ~ 11/4	
12月	大豆あとすき込み 11/3 ~ 11/11	
1月		
2月		
3月	醃酵鶏糞 4/16 ~ 5/2	有
4月	種子消毒 4/12 ~ 16	有
5月	(4~5月) 肥料散布・耕起・直播 4/16 ~ 5/19	有
6月	除草剤散布(4~6月) 5/12 ~ 6/18	
7月	畦草刈 6/7 ~	
8月	手取除草・病害防除	有
9月	7/30 ~	
10月	稲刈・乾燥・調整	
11月	(10/5 ~ 11/5)	
12月		
1月		
2月		
3月		
計画生産量	/ 193.1 t (480kg/10a)	
看板設置予定	29箇所	
栽培上の特記事項	病虫害の農薬防除は基本的に行わない。 但し天候その他病気の発生によりやむを得ない事情により、防除を 1回認める。	

注) 1. 作業については、前作の収穫終了後から当該作物の収穫終了時までを記入する。

2. 集団の場合、栽培についての申合せや取決めに関する資料を添付する。

3. 農薬等使用区分は、「不使用」「5割以下」等と記載する。

(2) 除草及び病虫害防除の方法 (節農5・化5・直播)

除草の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入水前に茎葉処理1回</li> <li>・ 入水後に一発剤使用</li> <li>・ 手取り除草</li> </ul>
病虫害防除の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 60度で10分間の温湯消毒</li> <li>・ 畦畔の草刈をまめに行う</li> </ul>

注) 1. 除草の方法は、手取り除草や除草機使用等を詳しく記入する。  
 2. 病虫害防除の方法は、基本的な対策のほか、予想以上に病虫害が発生した際の対応についても含めて記入する。

(3) 種子・種苗の状況

①自家採種又は自家採種以外の区別 (○を付ける)

自家採種 ○自家採取以外

②自家採種以外の種子、種苗に対する入手前の化学合成資材の処理状況

ア 化学合成肥料 (○を付ける) 処理 ○無処理

イ 化学合成農薬 (○を付ける) 処理 ○無処理

3 使用資材 (使用が予想される全ての資材を記入する。)

(1) 肥料、土壌改良資材及び堆肥等

資材名	天然・化学系資材の別	使用量 Kg/10a	時期 (月日)	窒素 成分量	うち化学 合成窒素
米ぬか	天然	100	10月	1% 0	0
醃酵鶏糞 (ファーテック)	天然	150	3月	1/10~1/4 3.15	0
もしくはケイホットハーブ	天然	180	4月	1/15 1/4 0	0
マイティコート	化学	33	5月	1/10~1/4 4.62	3.8
合 計				4.62 ~7.77	3.8
当該作物の認証基準値					4.0

注) 1. 土づくり資材含む。

2. 有機質肥料に化学肥料を含む場合 (配合肥料) の場合は、化学資材と記入する

(2) 農薬 (節農5・化5・直播)

農薬名	成分数	使用量 /10a	時期 (月日)	対象病虫害・雑草等名
サターンバアロ乳剤もしくは クリンチャーバスMEもしくは ノミニー液剤	2	600 ml $\frac{1}{2}$	4~5月	ヒエ・一年生雑草
ノミニー液剤	2	1000ml $\frac{1}{2}$	5月	ヒエ・広葉雑草
ノミニー液剤	1	200ml $\frac{1}{2}$	5月	ヒエ・広葉雑草
カリュードフロアブル	3	500ml $\frac{1}{2}$	5~6月	ヒエ・ホタルイ・アゼナ・オモダカ
<del>ブテシノフロアブル</del>	<del>2</del>	<del>1000倍, 1400</del>	<del>8月</del>	<del>いもち</del>
合計	4~5			
当該作物の認証基準値	6~7			
	8			

- 注) 1. 種子又は育苗に使用された農薬名も記入する。  
 2. 農薬名が特定できない場合は、〇〇剤、△△剤、××剤のうち1剤とし、成分数はその候補の中で最も成分数の多い数値を記載する。  
 3. 液剤等希釈して使用するものは、使用量は希釈倍数と散布量を記載する。

(3) その他資材

資材名	天然・化学 資材の別	内 容	使用目的	使用量	時期 (月日)	うち化学 成分量

- 注) (1)(2)以外の目的で使用するものを記入 (木酢液、ヒバ油、〇〇エキス、ペンキ等)。

(4) 自家製造資材の原料・製造方法

資材名	原料名	製造方法
なし		

- 注) 1. (1)(2)(3)において該当するものを記入。  
 2. 資材名は(1)(2)(3)において記入した名称を用いること。

- 注) 1. 資材名は、前作の収穫終了後から使用したものを記載する。  
 2. 購入資材については、カタログ、説明書等内容がわかる資料を添付すること。